

医学者五十人現地へ

月ノ浦
部落 ビールスではない

水俣市月ノ浦部落に発生したマヒ性の奇病は原因不明のものとして病理学界の注目を集めているが、この奇病に解明のメスを入れる
第二回の研究会が二十四日午後四時から水俣市尚和会館で開かれた。

十二人の患者を白浜病院に隔離し

たあとはい件も発生していない。

岩本対策委員長の話 同一家族内

親類、ごく親しい友人間に発生

しているところから伝染性のもの

ではないかとみられていたが

六反田教授の八ヵ月にわたる患

者の便の培養と動物試験による

経過報告でそのでもないことが

わかった。とにかく当面の問題

は環境衛生と患者の容態観

察に重点を置く以外にないが、

熊大をはじめ県、市の積極的援

助も約束されたので解明に全力

をあげたい。今後研究会は再

開くことになつて、本日の会議

の結論としてはようやく解明の

緒に近づいたといふだ。

の対策について協議、

●患者が発生した場合水俣市立白

浜臨離病院および熊本大学への無

料入院●県、水俣市、熊大、地元

医師会により結成されている対策

委員会(五月十七日結成)の全面

協力●県ならびに水俣市の財政的

援助●蚊、風、のみ、しらみの駆

除など現地の環境衛生に力を入れ

ることを決定、六時すぎ散会し

た。

なおさる二十九年から現在までの

発生状況は三十人うち十一人

(本年に入つて三人)が死亡して

いるが、年齢別では四歳以下六人

九歳以下五人、十代六人、二十

代、三十代各二人、四十代八人、

五十代一人で月別にみると四月か

ら八月までが多く、さる七月上旬

この日熊大からは勝木樹院長をはじめ六反田(細菌)・長野(小児科)・竹内(病理)の四教授が来水俣。細川新日赤付属病院長、伊藤水俣保健所長、岩本同市医師会長、浮池同副会長、大橋市立病院長、大崎市助役の出席を受けてた。月ノ浦部落の現地を視察、午後四時から尚和会館に約五十人の医学関係者を集めて討議に移つた。まず細川病院長から二十九年から本年にいたる月別、年齢別患者の発生状況、手足のマヒ、視力の減退、言語障害、高熱、高い死亡率をとらなう奇病患者の症状について説明、ついで六反田熊大細菌学主任教授から八ヵ月にわたる患者の便の培養、血液検査の結果、伝染性ビールスによる病気の断定する。ことは困難で、さらに今後の観察を必要とするものの報告があつたのち解剖、病理、小児科を各部門ごとに所見の発表が行われた。